



令和4年8月27日～28日ふれあい広場2022池田(感染予防対策し、3年振りに縮小して開催できた。ボランティアの祭典。)

池田町における住民主体の活動の展開

- ①池田町の概要
- ②新しい支えあいの文化づくりのプロセス
- ③学びの場から通いの場へつなげ個別支援へ
ふまねっと健康教室/くもん脳トレ健康教室/0次予防活動
- ④老人クラブで個別支援に取り組む【LOREN支えあいパートナーについて】
- ⑤まとめ



ROCOCO2号店から市街地への展開 地域見守りウォーキング【令和4年度】





①池田町の概要





①池田町の概要

◆ 池田町は十勝管内で、最も高齢化率が高い町です。



①人口16万5千人の
帯広市まで車で30分

池田町、北海道中川郡

池田町の特徴
高齢者も減少

北海道
十勝支庁
池田町

池田町の概要 (令和3年3月現在)

②人口	6,379人(△173人/R02)
③65歳以上	2,777人(△34名/R02)
75歳以上	1,566人
④高齢化率	43.53%
⑤後期高齢化率	24.55%
世帯数	3,316世帯

池田町の10年後 (令和12年には..)

人口	5,193人(△1,186/R03)
65歳以上	2,385人(△392/R03)
75歳以上	1,973人(+407/R03)
高齢化率	45.9%
⑥後期高齢化率	37.9%(どんな地域だろう)



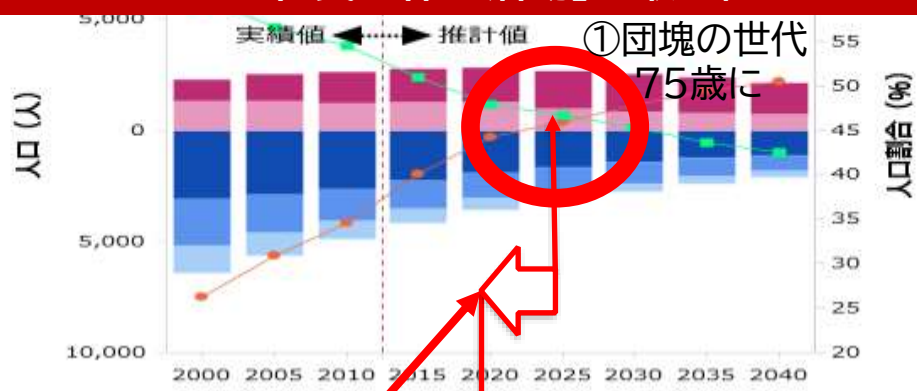
①池田町の概要

◆ 池田町の高齢化のスピードは加速している

④ 生産年齢人口と高齢者人口の割合の逆転が始まりつつある。数年の間に入れ替わる。このまま同じ生活スタイルで地域が維持していけるのか、どう乗り切っていくのか住民の皆さんと共有するところから「住民主体の活動」に取り組んでいる。(担い手とは誰の事か)

平成25年3月推計

令和5年(2025年)に生産年齢人口と高齢者人口が入れ替わる予測

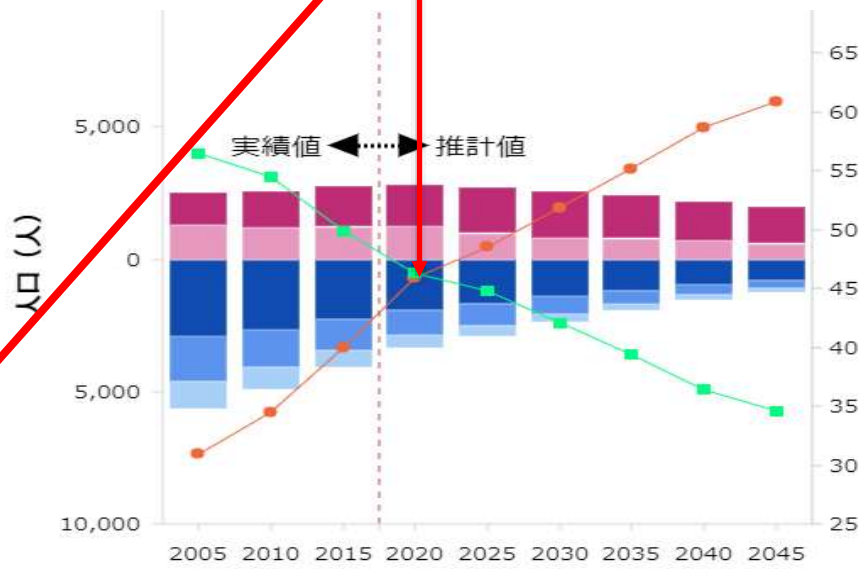


高齢者人口と生産年齢人口が逆転へ

②最新データ

平成30年3月推計

令和元年(2020年)に生産年齢人口と高齢者人口が入れ替わる予測 ※推計値



地域包括ケア「見える化」システム

予測よりも5年早いスピードで高齢化が進んでいる

<https://mieruka.mhlw.go.jp/> より転載



①新しい支えあいの文化づくり のプロセス





②新しい支えあいの文化づくりのプロセス



年齢にかかわらず
社会参加が『生きがい』であると感じられるように
(きっかけづくりと伴走的支援)
池田町 (行政・社協) が特に力を入れてやってきたこと

今後10年～30年の間の地域の経年変化を想定

◆介護が今必要な人を
誰がどう支えていくか

分けて考え同時に進める

◆元気な高齢者を増やす
には・・・ (介護保険だけでは困難)

元気な人が支えるという
単純な事で解決はしない。

加齢により
要支援に
なるリスク
高まる



加齢により
要介護になる
リスク高まる

現在、池田町では新規申請者
要支援認定者が減少傾向に。



→ **いきがいづくりを支援** (自分で選ぶ選択肢増やす)
要支援・要介護状態への移行を遅らせることができるのでは。

新しい支えあいの地域づくり
『**元気な高齢者を増やす**』

元気な方が元気なままで地域でつながり続ける環境を整える = **高齢者の社会参加**
→ **伴走的な専門職の支援が必要**
(参加者が介護予防効果を期待できるボランティア活動の場づくり)

地域にいる
身近な人と
つながっておくのが大切



②新しい支えあいの文化づくりのプロセス

◆ 生活支援体制整備事業の8つのプロセスについて(経過)

H18~

プロセス1 住んでいる町の住民主体の助け合い活動の実態について考察し、新しい住民主体の助け合い活動に取り組み、高齢化と人口減の加速する町全体の活性化につなげたいと考えた。

H22~

プロセス2 【テーマ型助け合い組織の育成】町内会連合会との連携事業
住民主体の助け合い活動に、組織的に取り組むために、介護予防プログラムを導入（ふまねっと運動）し、町内会館や老人クラブ会館等に一般介護予防教室を作り、教室を担う住民を派遣し始めた。

H25~

プロセス3
①住民主体の助け合い活動を促し、サロンのを開発する拠点の場所を作った。【ROCOCO】
②住民の通いの場への移動手段が課題だった。コミバスの実証実験時町内会連合会が自主的に乗車モニターを実施。町内会館をルートで結ぶよう町に提言書を提出。H26年からROCOCOがバスターミナルに。

H27~

プロセス4
① 住民に、地域が抱えている福祉課題等を共有してもらい、課題解決に協力してくれる新しい住民層を取り込むために町からの委託でボランティアポイント制度を導入した。→規範的統合の場面として最適。
② ボランティア登録方法の見直し⇒個人登録カードの導入を行って個人の趣味活動等のスキルを把握した。

H30~

プロセス5
住民主体の集いの場に、住民活動支援員【通所型対応3層生活支援コーディネーター】をボランティアポイント事業の一部を担当してもらながら養成した。
→場所はコミバスでつなぎ、人は支援員がつなぎ。

R02~

プロセス6 【地縁型助け合い組織の育成】老人クラブ連合会との連携事業
老人クラブに互助組織を立ち上げ、高齢者同士での生活支援を促進する。【訪問型対応3層生活支援コーディネーター】は女性部長等を養成。
→たすけあい内容は、自分達で議論し決めていく。

プロセス7 協議体受託運営・生活支援コーディネーターの配置。住民主体の通いの場等は継続支援。足りないサービスを検討する。最終的に協議体の中で整理し総合事業に落とし込む。

- 従来どおり町内会、老人クラブ、社協、民生委員等の有機的連携で地域福祉の基盤強化を目指す。
- 介護予防のしくみは、住民+「学びの場」を経験した住民+3層生活支援コーディネーターに養成した住民でつくる。

プロセス8 新5年間プロジェクト 健康づくりから介護予防へ0（ゼロ）次予防開始

健康づくりから介護予防へつなげる「ROCOCO2号店」整備（0次予防）。高齢者の昼間の交流人口を増やす。



②新しい支えあいの文化づくりのプロセス

◆ 生活支援体制整備事業の8つのプロセスについて(経過)



H18~

POINT 1

「助けあい活動」と「介護保険サービス」を混同しないように整理。

POINT 2

介護予防に資する住民主体の通いの場を町内会館につくり、研修を受けた住民を定期的に派遣し、全町へと拡大。町内会活動を活性化。活動実績の数値化に着手した。

H22~

POINT 3

①住民が参加したくなる魅力ある通いの場をつくる拠点「ROCOCO」を整備(1次予防)。
②誰もが魅力ある場所に参加できるよう、移動手段(コミバス)を確保。

POINT 4

ボランティアポイント制度に取組み、ボランティア活動をまちの活性化につなげた。町で使える商品券で貰え、活動の達成感と町の活性化に貢献している充実感が強い。

H25~

POINT 5

子育て中の主婦層等を地域でのボランティア活動ポイント認証業務で雇用できた。専門職が助言指導し、通いの場の安全確保、記録報告業務等を行う。人と人、人と場所をつなげる。

POINT 6

老人クラブは元気な高齢者が組織している団体。会員の減少、役員の継承がうまくいかず解散するケースが散見。会の在り方を見直し、魅力ある活動へSCが側面的な支援。

H27~

POINT 7

生活支援体制整備事業協議体・sc受託 協議体は非定型(SCが参加する会合等を協議体と町が認定)

■従来どおり町内会、老人クラブ、社協、民生委員等の有機的連携で地域福祉の基盤強化を目指す。
I介護予防のしくみは、住民+「学びの場」を経験した住民+3層生活支援コーディネーターに養成した住民でつくる。

H30~

POINT 8

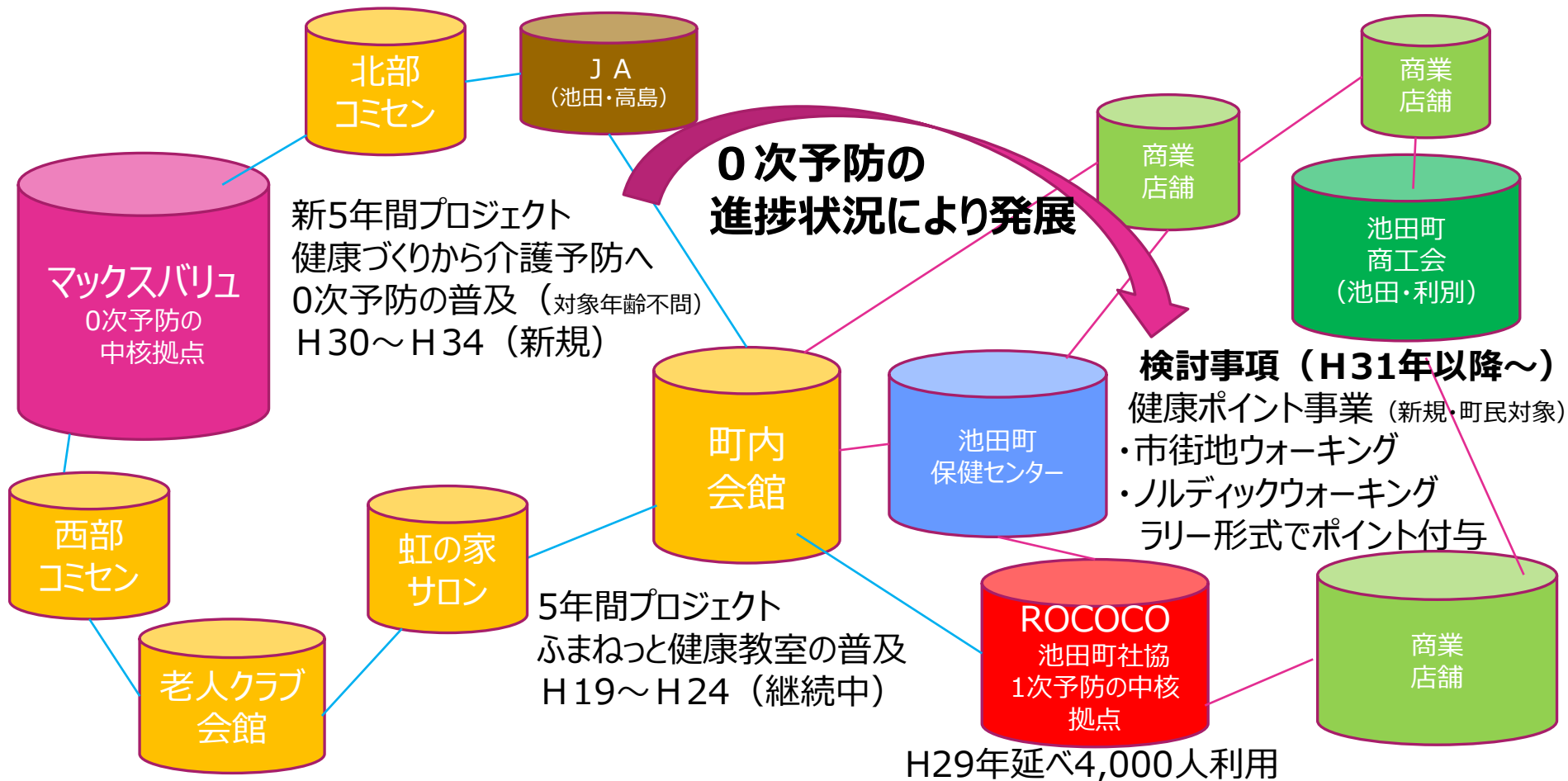
コロナ禍、各会場クリーンサロン化(3密避け予約制)。緊急事態宣言時には、全ての通いの場利用者のうち希望者に、再開まで無料で①週1回の電話サービス。②月2回の脳トレ手紙サービスを開始。
③週1回のオンライン通いの場(ZOOM)つながりを切らさない。

R02~

POINT 9

◆長期目標

健康づくりから介護予防を目指す0次予防を利別地区から池田町全域へと拡大していく。





③学びの場から通いの場へ つなげ個別支援へ

(ふまねっと健康教室、くもん脳トレ健康教室、0次予防活動)





③学びの場から通いの場へつなげ個別支援へ

◆ 住民に学びの場を提供し、地域に住民主体の活動を広げる。

社会参加するきっかけをつくる

1層生活支援
コーディネーター等
専門職が講師



通所型助け合い

規範的統合

訪問型助け合い

ふまねっとサポーター養成講座
(年1回4時間)

介護・地域支援
ボランティアポイント
事前研修会
(登録時90分)

LOREN支えあい
パートナー養成研修
(年4回各10時間)

参加
支援

連携
協調

介護予防に資する一般
介護予防の通いの場
づくりにつなげる。

町全体の
活性化につなげる。

高齢者同士の助け合いは
高齢者自身で作る。訪問での
助け合いづくりにつなげる。

2層生活支援
コーディネーター等
専門職が
側面的支援



フォローアップ(日常的な励まし・相談・助言・マッチング等含む)

ふまねっとサポーター
スキルアップ講習会
(新人とベテランの融合)

フォローアップ研修
ボランティアスクール
ふれあいたすけあいのつどい
ボランティアミニ愛ランド
ふれあい広場等

LOREN支えあい
マネージャー連絡会
(訪問型3層生活支援
コーディネーター会議)

参加
支援

連携
協調



担い手となるボランティア(サポーター・パートナー)誕生

住民活動支援員(通所型 3層生活支援コーディネーター)

通いの場と人をつなぐ・人と人をつなぐ

③学びの場から通いの場へつなげ個別支援へ◆池田町の通いの場の作り方

◆ 介護予防につながる通いの場から住民間の個別支援につなげる

地域の中に元気な時から定期的に通う場があり、加齢に伴い要支援・要介護に移行しても、本人が希望すれば通い続けられる居場所を作りたい。→サービスではなく**新しい支えあいの文化**

元気な時から関わっているから自然に助け合える!
日頃から自然に関われるしくみを地域で考える!

(池田町はふまねっと健康教室は平均年齢63歳から始めた!)

POINT

人と人が『支え合う』というより『つきあう』ことから



協議体・生活支援
コーディネーターが
移行支援も行う



現在

元気高齢者
中心で始める

5年~10年後
要支援・要介護者
の割合が高まる

訪問してちょっとの手伝いをする
場合。
訪問型B補助を受けて
住民間で、訪問して助け合う
ことも
(池田町は今後検討)

訪問による
生活支援は
老人クラブ
連合会と連携
(LOREN
支えあい
パートナー事業)



送迎があれば
参加できる人がいる場合。



訪問型Dの補助をもらい
通いの場へ住民が送ることも

更に5年~10年後歩いて通え
なくなった場合。

将来

要支援者/要介護者の
割合更に高まる..



介護予防に資する
通いの場
池田町は町内会
連合会と連携

(ふまねっと健康教室)

今まで通所型サービスBという補
助をもらって住民主体で通いの場
を運営できる。(デイサービスに該
当する人でも、地域でそのまま仲
間と。)



③学びの場から通いの場へつなげ個別支援へ◆池田町の通いの場の作り方

◆ 介護予防に資する通いの場『ふまねっと健康教室』のしくみ



最新の活動



令和3年度北海道指定高齢者ICT通いの場モデル事業で、札幌市、池田町(利別地区)、(高島地区)を結んで介護予防教室ができた。



北海道指定高齢者ICT通いの場モデル事業をきっかけに、認定NPO法人ふまねっとが毎日無料で配信している『おうちでふまねっと』に参加される方ができた。



③学びの場から通いの場へつなげ個別支援へ ◆池田町の通いの場の作り方

◆ 介護予防に資する通いの場『くもん脳トレ健康教室』のしくみ



H28～NPO法人
虹の家会場開始連携

H22～ ボランティア・町民活動支援ルーム ROCOCO

参加者 (1名～2名)
住民活動支援員
社協非常勤職員
(1名)

- ◆コロナ感染予防対策(R2.6～)
- 実施日 週2回 火・木曜日合計18名
(4月～9月/10月～3月)
- ①10:00～10:40(3名)
- ②10:45～11:25(//) 1回あたり
- ③11:30～12:10(//) 減員!

参加者 (1名～2名)
アシスタント
ボランティア
70歳以下
(1名)

参加費 自己負担500円/月(送迎付)
くもんの支払い教室 @2,200円

効果測定
前後各1回
MMSE
町保健師

丸付け
ボランティア
(年齢制限無)

住民活動支援員
社協非常勤職員

ROCOCO
ロビーで交流



参加者はタクシー
送迎付



手作りパン販売

多様な通いの場と
の連携が重要!

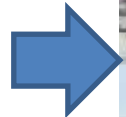
ふまねっと
健康教室

天声人語サロン

知識力アップサロン

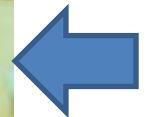


最新の活動



令和3年度 北海道指定
高齢者ICT通いの場事業

くもん脳トレ教室
札幌の講師とZOOMで
つながり体験ができた。



令和4年度
道の事業の活かし、市街
地区から離れた高島地区
において、くもん脳トレ体
験会を実施し、令和5年度
通常開催するきっかけづ
くりにする。



③学びの場から通いの場へつなげ個別支援へ



無料・低額
自分で選んで
通える!



年間260日も住民主体で開催されているふまねっと健康教室

◆H29 一般介護予防の通いの場は40か所。男性2,551名、女性10,189名合計12,776人



ふれあいネットワークサロン



くもん脳トレ健康教室



卓上サロン



再生ボランティアサロン



レクリエーション吹矢サロン



知識カアップサロン

一般介護予防事業等	開始年	会場数	開催数	料金	H29 延べ参加者数 (人)		
					男	女	合計
ふまねっと健康教室	H19	18	週1回 (最高)	無料	900	3,218	4,118
天声人語サロン	H22	1	月2回	月100	83	326	409
くもん脳トレ健康教室	H22	1	週1回	月500	159	601	760
ROCOCOサロン	H22	1	週1回	回100	302	366	668
再生ボランティアサロン	H22	1	月2回	無料	0	166	166
ふれあいマーじゃん	H22	1	月2回	無料	146	149	295
卓上サロン	H22	1	月2回	無料	183	6	189
知識カアップサロン	H29	1	月2回	月100	11	79	90
レクリエーション吹矢	H29	1	月2回	月100	50	55	105
ふれあいネットワークサロン	H26	8	週1回 (最高)	会場毎	240	1,766	2,006
ふれあい郵便	H7	1	月2回	無料	0	103	103
ふれあい昼食会	H4	1	月1回	回200	9	271	280
まるごと元気アップ (包括)	H28	1	週1回	月千円	288	2,155	2,443
あじさいサロン (NPO法人)	H28	1	週1回	回500	0	474	474
くもん脳トレ健康教室 (虹)	H28	1	週1回	月500	43	267	310
サロン虹の家	H28	1	週3回	無料	137	187	360
合計		40			2,551	10,189	12,776



④老人クラブで個別支援に取り組む
LOREN支えあいパートナー
について





④老人クラブで個別支援に取り組むLOREN支えあいパートナーについて



◆「LOREN支えあいパートナー事業」取り組みに至る経緯

問題点 急激な会員の減少とそれに伴う単位クラブ組織の解散。



会員減少が進むと役員のなり手が無くなる。⇒数年後に連合会の運営危機か

目標

- 1. 会員減少に歯止めをかける
- 2. 新規会員の獲得

解決策

会の事業を一部見直し、既存会員が喜ぶ、また、新たな人が入会したくなるような、時代に合わせた魅力ある事業に取り組んでみてはどうか。

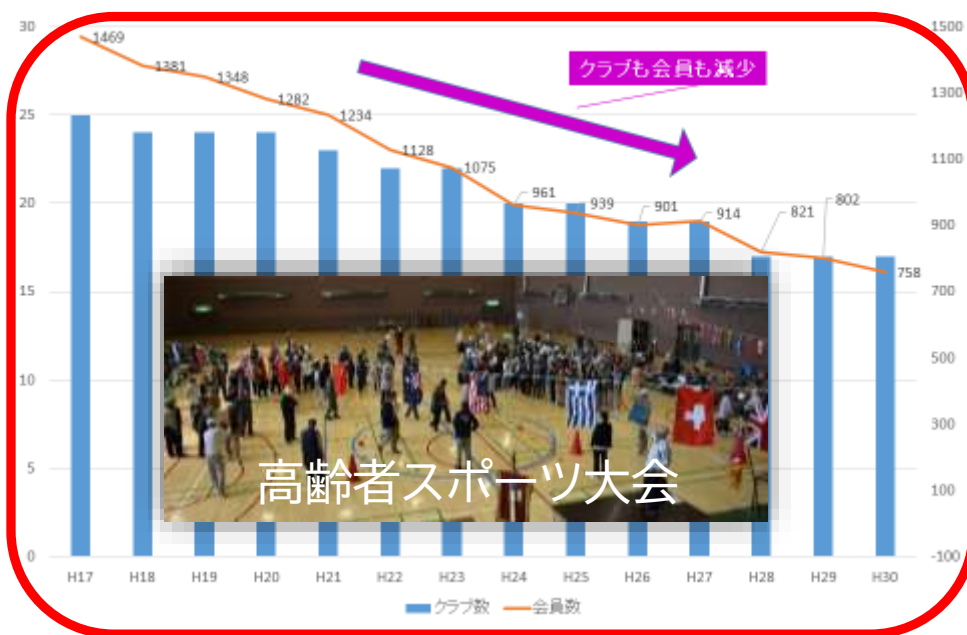


LOREN支えあいパートナー事業のきっかけ



生活支援コーディネーターが老人クラブの事務局なので、元気な高齢者が集まる老人クラブを重要な地域資源と捉え、会の継続を支援している。

池田町における単位クラブ数と池田町老人クラブ連合会会員数の推移





④老人クラブで個別支援に取り組むLOREN支えあいパートナーについて

◆ LOREN支えあいパートナー事業は高齢者に必要な福祉の知識を伝える場



LOREN支えあい
パートナー養成講座
受講者
活動のきっかけ作り
と活動の質の
維持



⑤派遣調整(事務局とマネジャー)

訪問型3層生活支援
コーディネーター

LOREN
支えあいマネジャー ⑥6か月毎換券

■パートナー謝礼
町のみで使用できる
商工会のワイン
スタンプ券に換券

町商店街
の活性化

池田町老人クラブ連合会事務局

(LOREN支えあいパートナー会)

- ・LOREN支えあいパートナーの需給調整業務
- ・助けあいの内容についての調整



事務局員

②チケット事前購入
(利用者が)



行政説明・総合事業が必要な背景

①パートナー
登録(全員で)

③利用申し込み
(事務局へ)

④内容確認(訪問等)
(事務局が)

LOREN
支えあいパートナー
(提供者)

⑦利用前に
チケットを渡す(1枚30分200円)

⑧助けあいの提供をする

LOREN
支えあいパートナー
(利用者)



支えあいパートナー養成
講座の受講を推奨する。

LOREN
支えあいパートナー

- ①社協で実施する支えあい
パートナー養成講座(1日間5時間程度)
を受講してもらう。(原則必須)
- ②パートナー修了証発行。
- ③パートナー会に登録。

- ③30分程度の生活(家事)支援について
※専門性、継続性、緊
急性のないもの
例 高いところの軽い荷物の移動、電球・蛍光灯の取り換えなど

チラシとポスターを作成し、チラシは、町行政に依頼し町内に全戸配布。ポスターはLOREN支えあいマネジャーが会員宅を訪問の上、事業の説明し部屋に貼ってもらうようにした。

※町から立ち上げ支援として養成講座の費用186,000円/年(H29)補助を受けている。まだ訪問型サービスBではない。利用料200円/回だが、報酬は250円/回となっており、50円/回は、会の拠出金(単位老人クラブ毎の年会費)で賄っている。活動費補助(50円/回)について、町から補助をもらった場合はサービスBとなる。(今後の課題)



④老人クラブで個別支援に取り組むLOREN支えあいパートナーについて

◆ LOREN支えあいパートナー事業は高齢者に必要な福祉の知識を伝える場

平成27年6月
LOREN支えあいパートナー
事業について説明20名

①女性部会



平成27年7月
道老連の補助事業を活用し、事業実
施準備着手について決定30名

②老連理事・女性部合同役員会



老人クラブ未加入者が
LOREN支えあいパート
ナー会の助け合いを
利用できるか否かで
意見が分かれた。
・会費を払わない人ま
でお世話をするのか
・行政がやるべきこと
でいかなど。

平成27年9月
信取老人クラブ例会で説明
(例会での1回目)20名

③単位クラブ
にて説明

平成27年11月
LOREN支えあいパートナー
養成講座 (1回目)25名

④全会員から
募集



平成28年1月
LOREN支えあいパートナー会議
(1回目養成講座受講生)20名

⑤養成講座受講生
意見交換

平成28年1月
単位クラブ交流会
会員約180名参加

⑥全会員対象で
意見交換会

⑦平成28年5月 町老連総会にてLOREN支えあいパートナー会設立

④老人クラブで個別支援に取り組むLOREN支えあいパートナーについて



◆活動実績

平成29年度102回25,500円(51時間の活動)

- ① 相談件数 5件
- ② 利用件数 8件(人)
- ③ 活動した支え手の人数 8人



- ④ 主な利用内容
煙突掃除、チェーンソー修理、石運び、草むしり、話し相手、網戸交換、土運び、スコップ収納、噴霧器調整、ごみ出し、氷割、戸の立てつけ修理、車庫のシャッター油さし、時計の電池交換

- ⑤ 派遣回数 家事援助 97回 話し相手5回
- ⑥ LOREN支えあいパートナーチケット購入分 17セット
- ⑦ 支えあいマネジャー会議1回、パートナー養成講座3回



LOREN支えあいパートナーのしくみ



2017年1月23日北海道テレビ放送 <https://www.htb.co.jp/news/oiru/>

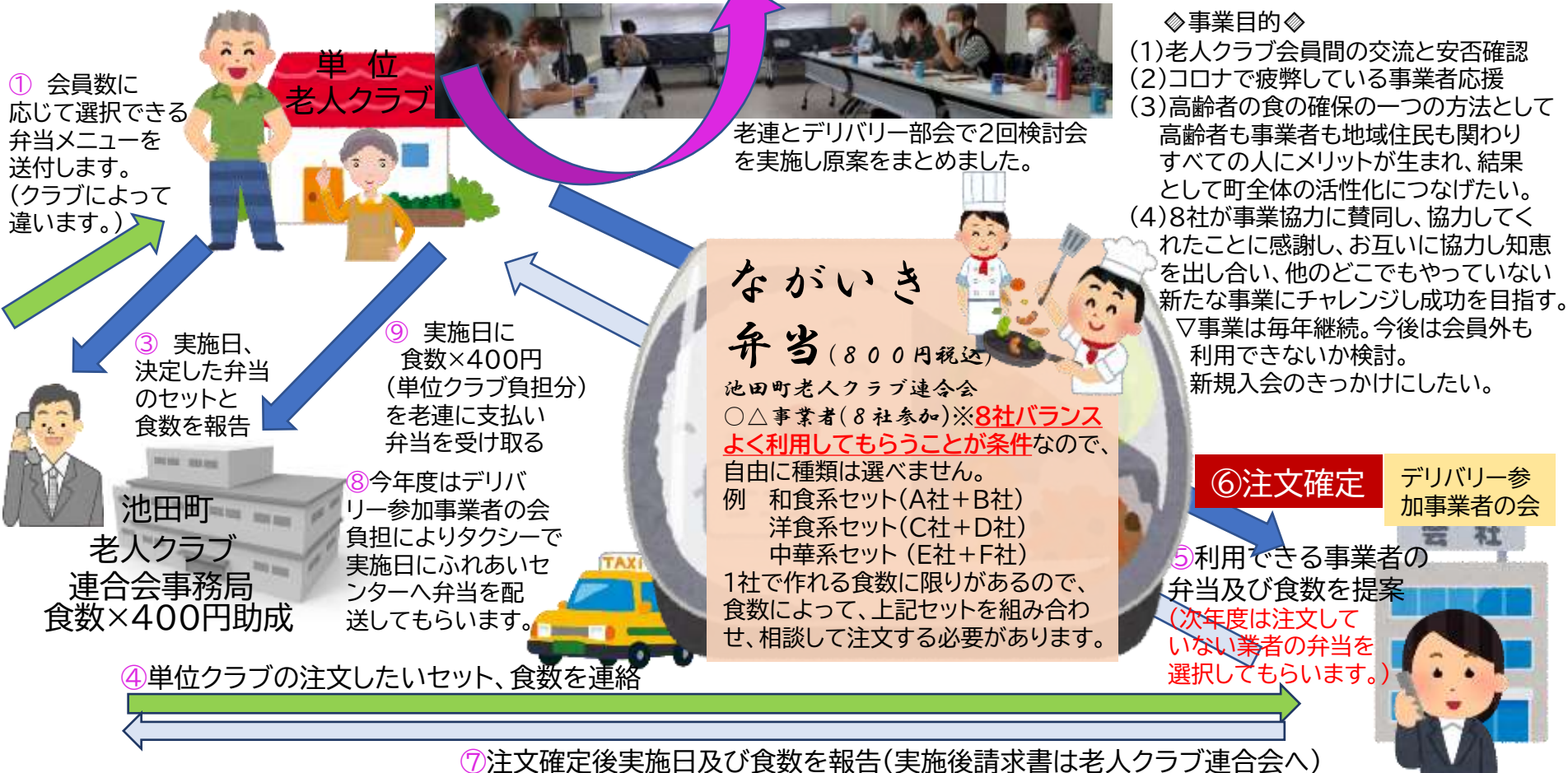


たいせつな友愛訪問活動

コロナで減ったふれあいの機会を減らさないため! 安否確認が重要です!(合計3回)

②1回目 事前訪問 / ⑩2回目 弁当配布訪問 / ⑪3回目 アンケート回収訪問

来年度以降より良い事業に育てるために大切な資料になります!





⑤まとめ





⑤まとめ～サポーターからパートナーへ

◆介護予防に取り組み15年。池田町は介護保険料が全道で一番下がった!

十勝で高齢化率第1位でも**介護保険料**は14位/19市町村

区分	金額(前回対比)		差	構成(前回対比)		差
	第8期	第7期		第8期	第7期	
総給付費	4,559	4,754	△195	83.7%	86.3%	△2.6%
(在宅サービス)	1,345	1,305	40	24.7%	23.7%	1%
(居住系サービス)	1,073	1,097	△24	19.7%	19.9%	△0.2%
(施設サービス)	2,142	2,352	210	39.3%	42.7%	△3.4%
その他の給付費	363	427	△64	6.7%	7.8%	△1.1%
地域支援事業費	528	323	205	9.7%	5.9%	3.8%
保険料出納必要額(月額)	5,450	5,504	△54	100.0%	100.0%	0%
準備基金取崩額	264	0	264	4.8%	0	4.8%
保険料出納必要額(月額)	5,186	5,504	△318	95.2%	100.0%	△4.8%

地域支援事業費が約4%伸びた。地域福祉推進の財源として充てられ、介護予防の効果が期待できるふまねっと運動など住民主体の通いの場の効果が表れてきた。一般介護予防事業に力を入れ、住民主体の力を引き出しているのが池田町の特徴。

平成18年から、茶のみや食事のサロンではなく、介護予防運動をすることを目的として集まるサロンを実施してきた。食事の作業が負担となることを見越してのことだったが、コロナ禍においては、会食が無いことで容易に中止・再開できるメリットとなった。

第7期は準備積立基金を取り崩していない。

第8期は準備積立基金を取り崩さなくても△54円。

第8期は準備積立基金2,500万円を取り崩して△314円。

※令和2年度の決算が確定していないが、3,500万円程度は準備基金が残る予測。

引下額は池田町は全道第1位(314円)、第2位千歳市(300円)、第3位弟子屈町(309円)

他市町村では基金が枯渇しているところも・夕張市は7,875円(1,639円増)前回対比+26.28%

負荷のかかるものを整理し
新しい助けあいの文化へ

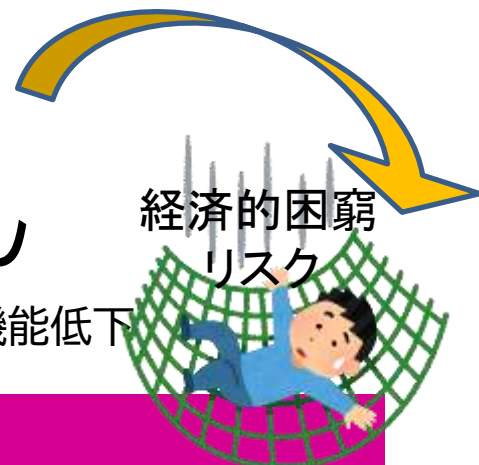
ふまねっと運動が盛んな自治体の成績が良い傾向がみられるよ





介護 病気 災害

暮らしのリスクはたくさん



多様な生活課題は、当事者(組織)の善意や高い意識・ ←人口減少・高齢化・家族機能低下
意欲だけではカバーできなくなっている。 により地域は疲弊

◆リスク軽減のためのシステム(しくみ)が必要ではないか

今から **地域全体で 備える** = **地域全体で 社会参加**

リスク軽減の
入り口

きっかけづくり (参加支援) → 社 協 (生活支援コーディネーター等)

◎元気な時から仲間をたくさん作り、趣味やいきがいに感じている活動に参加すること
※独りで居たい人をどうするかも課題だが、いずれ地域で支えるためにも、まずは社会参加する人を増やしていく。

将来インフォーマルサービス(助けあい)になるかもしれない

新しい支えあいの

地域(土台)づくり

目標 元気な時に取り組んでいたことをやり続けられる。通っていた場所に通い続けられる

暮らしの安心
生きがい実感

出口

専門職が伴走的参加支援

個別の生活課題をインフォーマルサービス・助け合いで解決しながら、できなくなっている部分を介護保険サービスがカバーしていくイメージが地域を強くしていくと感じている。

參考資料



◆ まとめ(付属資料1)

⑬ コロナ禍を乗り越え基盤強化へ

平常時の地域福祉活動

◆ 池田町における生活支援体制整備事業の基本理念(H18~)

出会いの場面をつくり、元気なときからできるだけ多くの人と『つきあっていく』きっかけをつくる! → **新しい支えあいの文化づくり**

◆ 基本方針(H27~)

元気なときから「つきあっている」から自然に助けあえる!(住民主体)
担い手の養成ではなくて必要な福祉の知識をすべての住民に身につけてもらうしくみをつくる。



池田町の概要	
人口	6,379人(△173名/R02)
65歳以上	2,777人(△34名/R02)
75歳以上	1,566人
高齢化率	43.53% (十勝第1位)
後期高齢化率	24.55% (4人に1人)
世帯数	3,316世帯

◆ 第8期介護保険料**5,186円**
前回より314円下がった。
(北海道第1位の下げ幅)

↓
介護予防(しくみ)の効果が表れてきた!?

元気な高齢者が元気なままつながるためのきっかけづくり



▲0次予防拠点



▲歌ごえサロン



▲おもちゃ病院



生活支援
コーディネーター



▲ふまねっと健康教室



▲LOREN支えあいパートナー
引き上げる力

参加
支援

落下
させない力



▲『住民活動支援員』が人と人、人と場所をつなぐ

効果:福祉課題を小さく変えていく・住民の力が相互に引き出される・専門職の早期介入



◆ まとめ(付属資料2)



① コロナ禍を乗り越え基盤強化へ

緊急時の地域福祉活動

情報格差を埋める支援で地域福祉の基盤を強固に!◆ウィルスにも災害にも有効。◆

◆R元～新型コロナウイルス発生(人と会えない・つながれない) →

対応経過

緊急事態宣言時の対応。宣言解除後は縮小して継続実施する。再発令時は、再度全員に意向確認を行う。

- クリーンサロン化(R2～) → 町保健師派遣、消毒方法等徹底
- ロコメール(R2～) → 隔週。SCが脳トレ問題等郵送。
- ロココール(R2～) → 週1回。会話でつながりを維持する。
- 約40か所のサロン利用者すべてに住民活動支援員が電話をかけ利用意向確認を行った結果、②は124名、③は65名、重複利用は62名。
- オンライン通いの場(R3～)



ピンチをチャンスに



普段から住民活動支援員とつきあっているので電話での会話が楽しい!

コロナをきっかけに『オンライン通いの場』をつくり、地域福祉の基盤強化に



1 全5回zoom研修に20名以上参加。



2 講演会に自宅からも参加できるようになった。



3 フォローアップ研修。グーグルMAPで旅行体験。



4 住民活動支援員対象オンライン内部研修



5 週1回。オンライン通いの場実施。

成果:生活支援体制整備で培った地域のつながりをオンラインで一部補えた。

目標:通常の通いの場の充実とオンラインを活用して参加者の裾野を広げる。

◆これからは平常時にもオンラインを活用! 詳しい活動経過はfacebookで→

